

北海道駒ヶ岳の火山活動解説資料（令和5年5月）

札幌管区气象台
地域火山監視・警報センター

火山活動は静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○活動概況

・噴気など表面現象の状況（図1-①～③、図2～5）

山頂に設置した監視カメラでは、昭和4年火口及び明治火口のごく弱い噴気が確認された日がありました。噴気活動は低調な状態です。

31日に山頂火口原で実施した現地調査では、昭和4年火口の噴気の状態や地表面温度分布は、前回の観測（2022年10月）と比べて特段の変化は認められませんでした。また、その他の火口についても状況に変化はありませんでした。

・地震及び微動の発生状況（図1-④～⑥、図6）

火山性地震は山頂火口原の深さ0～1km付近で発生しました。地震回数は少なく、地震活動は低調な状態です。

火山性微動は観測されていません。

・地殻変動の状況（図7）

GNSS連続観測では、火山活動によると考えられる変化は認められません。

この火山活動解説資料は、気象庁のホームページでも閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び北海道のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』、『電子地形図（タイル）』、『数値地図25000（行政界・海岸線）』及び『基盤地図情報』を使用しています。

次回の火山活動解説資料（令和5年6月分）は令和5年7月10日に発表する予定です。

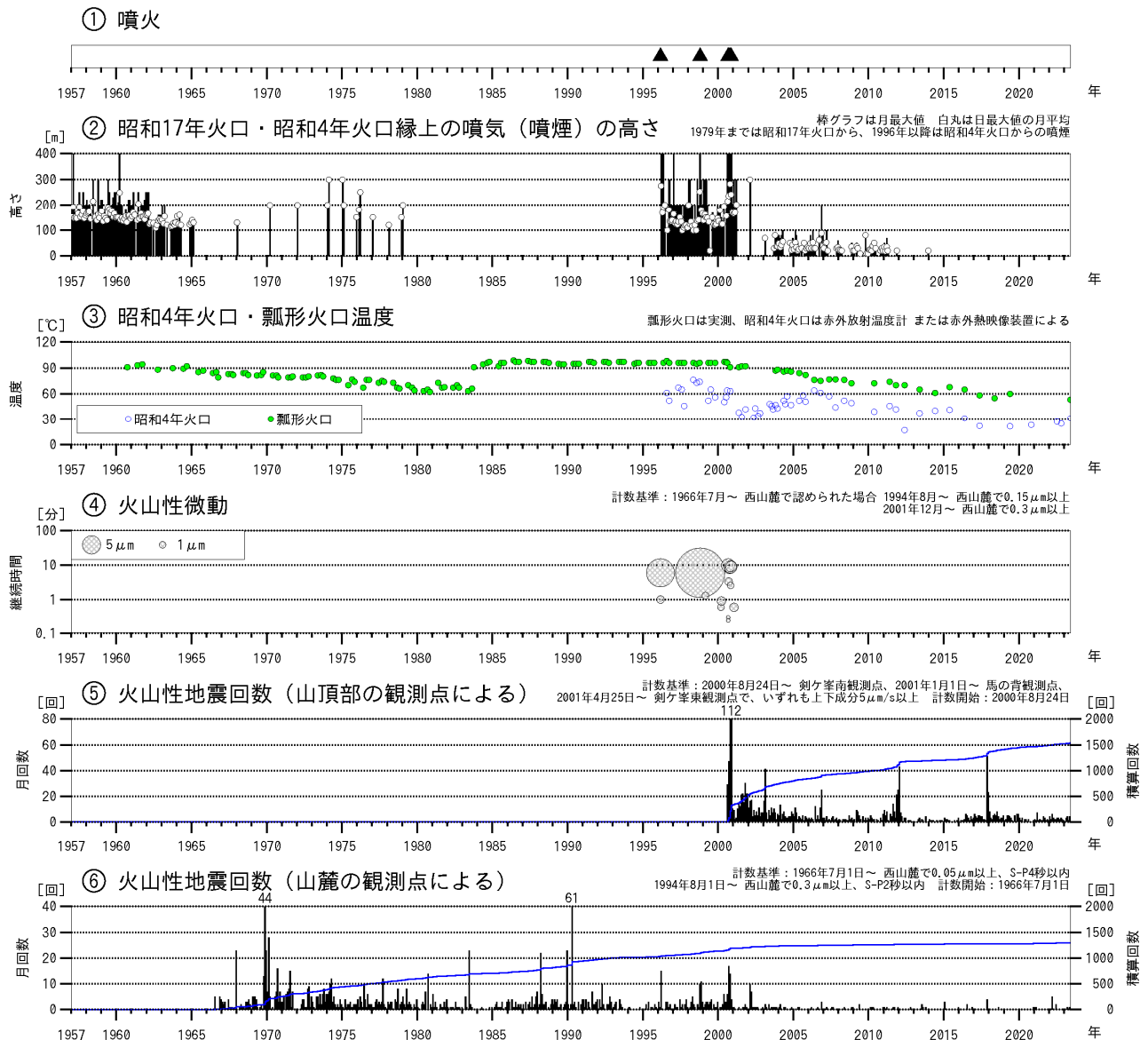


図1 北海道駒ヶ岳 火山活動経過図（1957年1月～2023年5月）

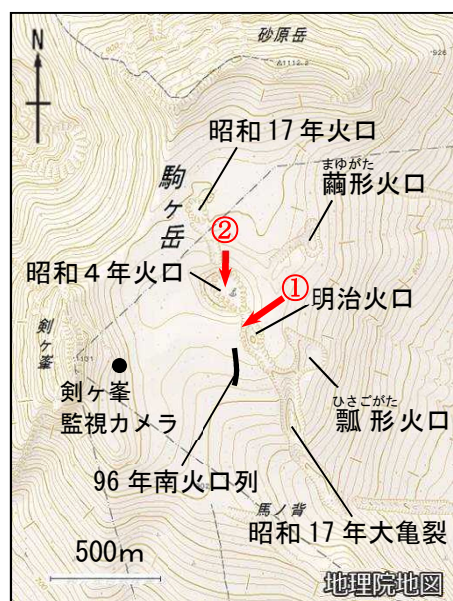


図2 北海道駒ヶ岳 火口周辺図と写真及び赤外熱映像撮影位置

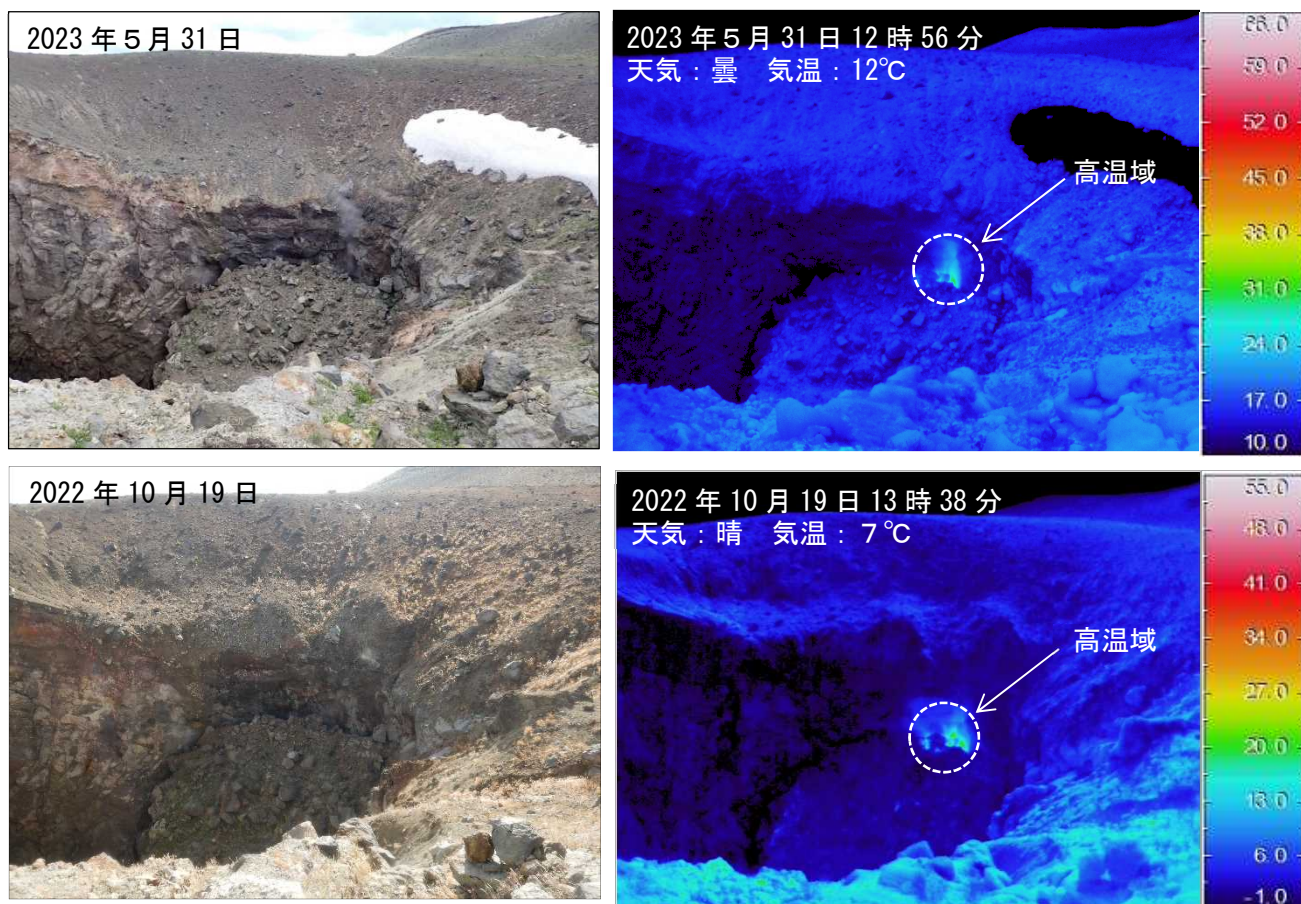


図3 北海道駒ヶ岳 赤外熱映像装置による昭和4年火口の地表面温度分布

（図2の①から赤矢印の方向に撮影）

- ・ 前回の観測（2022年10月）と比べて、地表面温度分布に特段の変化はありませんでした。

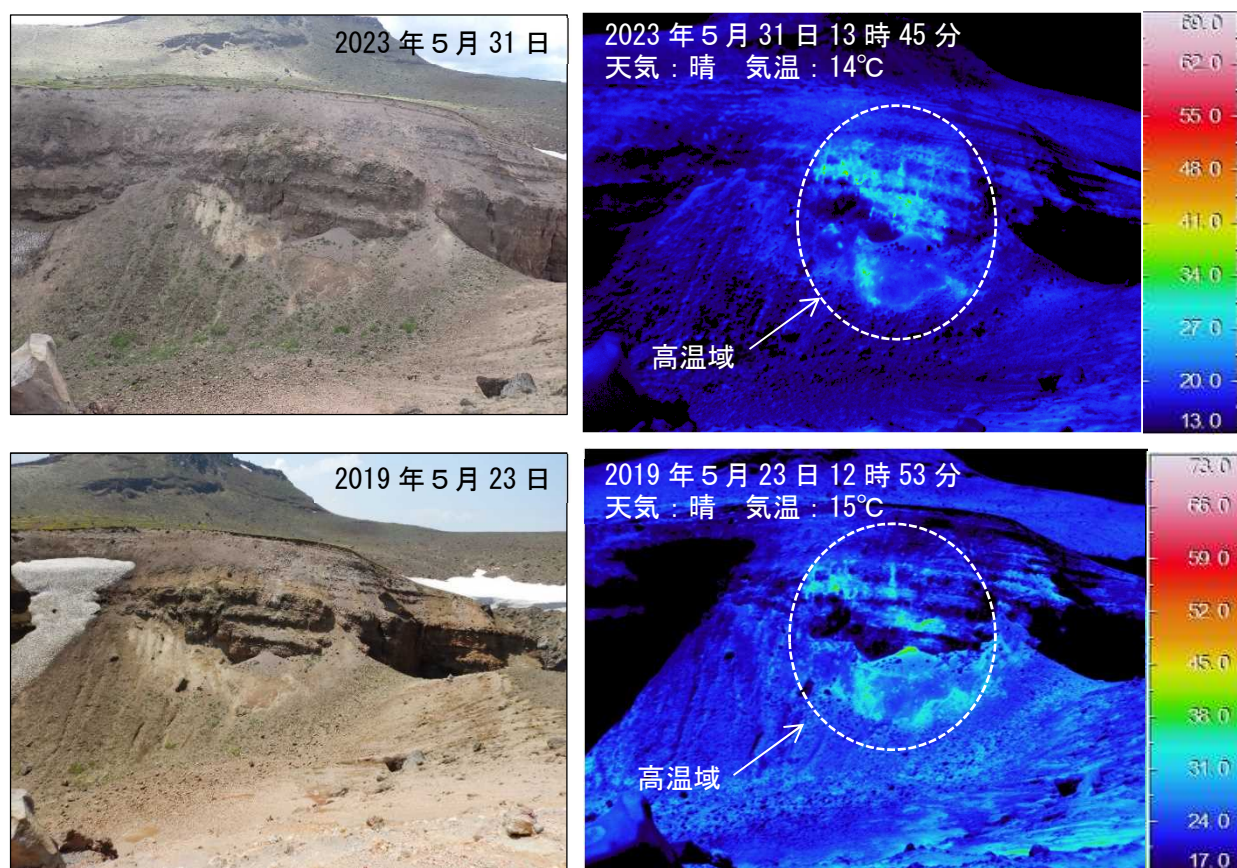


図4 北海道駒ヶ岳 赤外熱映像装置による明治火口の地表面温度分布

（図2の②から赤矢印の方向に撮影）

- ・過去の観測（2019年5月）と比べて、地表面温度に特段の変化はありませんでした。



図5 北海道駒ヶ岳 西南西側から見た火口周辺の状況
(剣ヶ峰監視カメラによる)

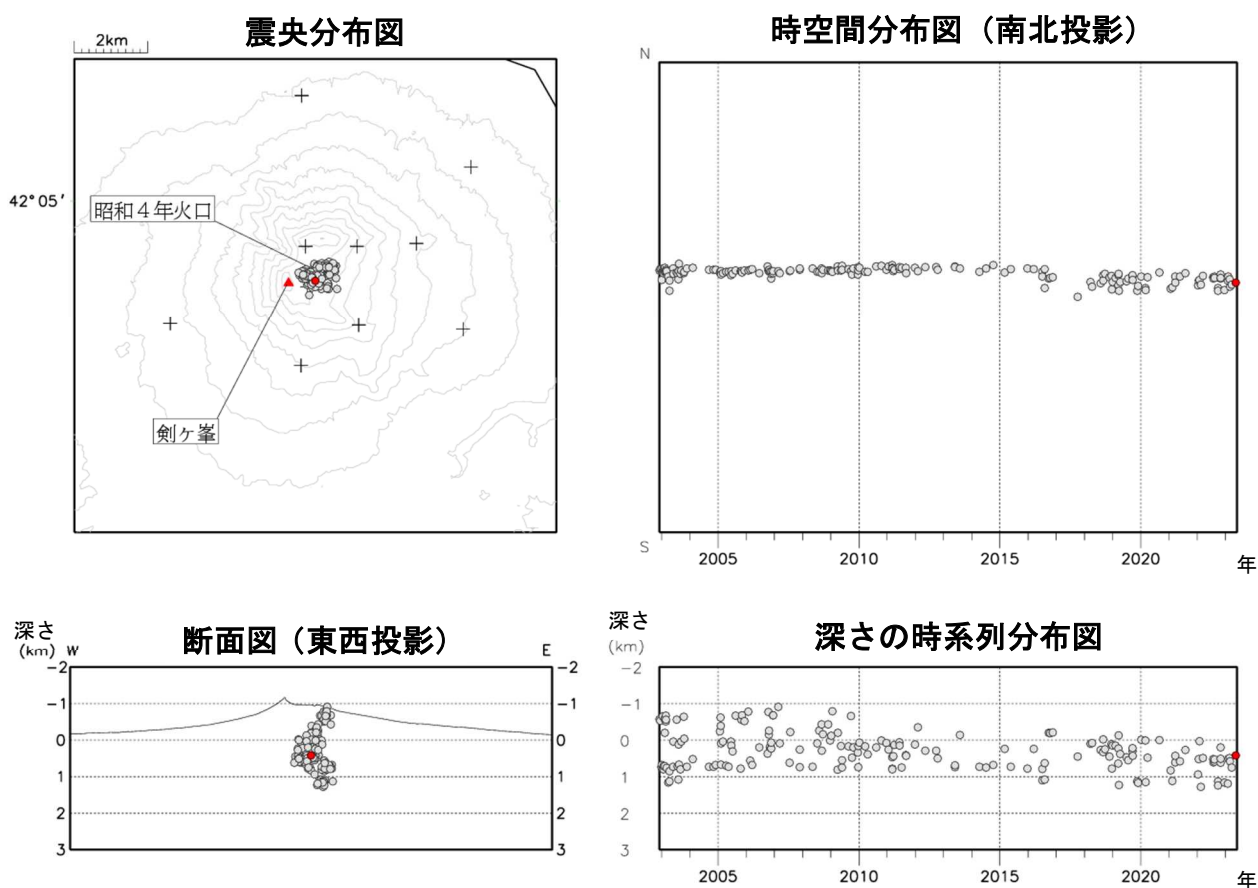
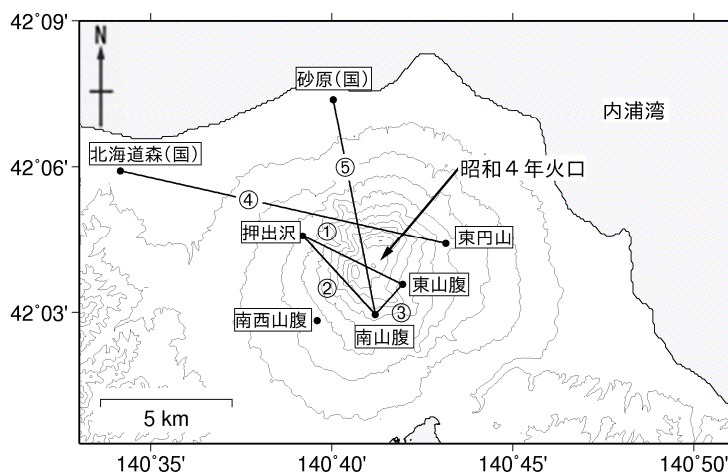
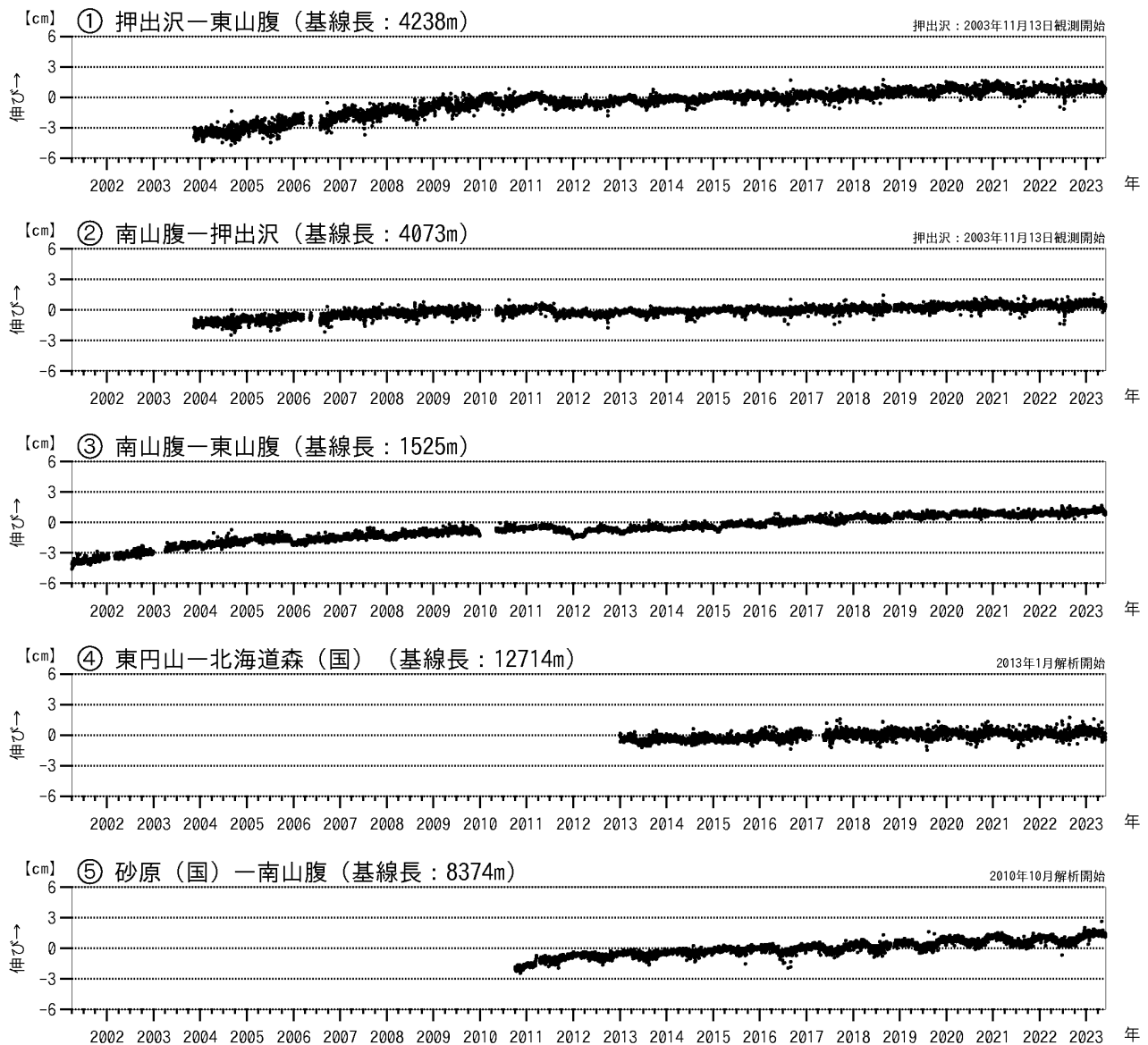


図6 北海道駒ヶ岳 火山性地震の震源分布（2002年12月～2023年5月）

- : 2002年12月～2023年4月の震源
- : 2023年5月の震源
- ＋ : 地震観測点



（国）：国土地理院

図7 北海道駒ヶ岳 GNSS連続観測による基線長変化（2001年4月～2023年5月）及び観測点配置図
グラフ①～⑤は観測点配置図の基線①～⑤に対応しています。
グラフの空白部分は欠測を示します。

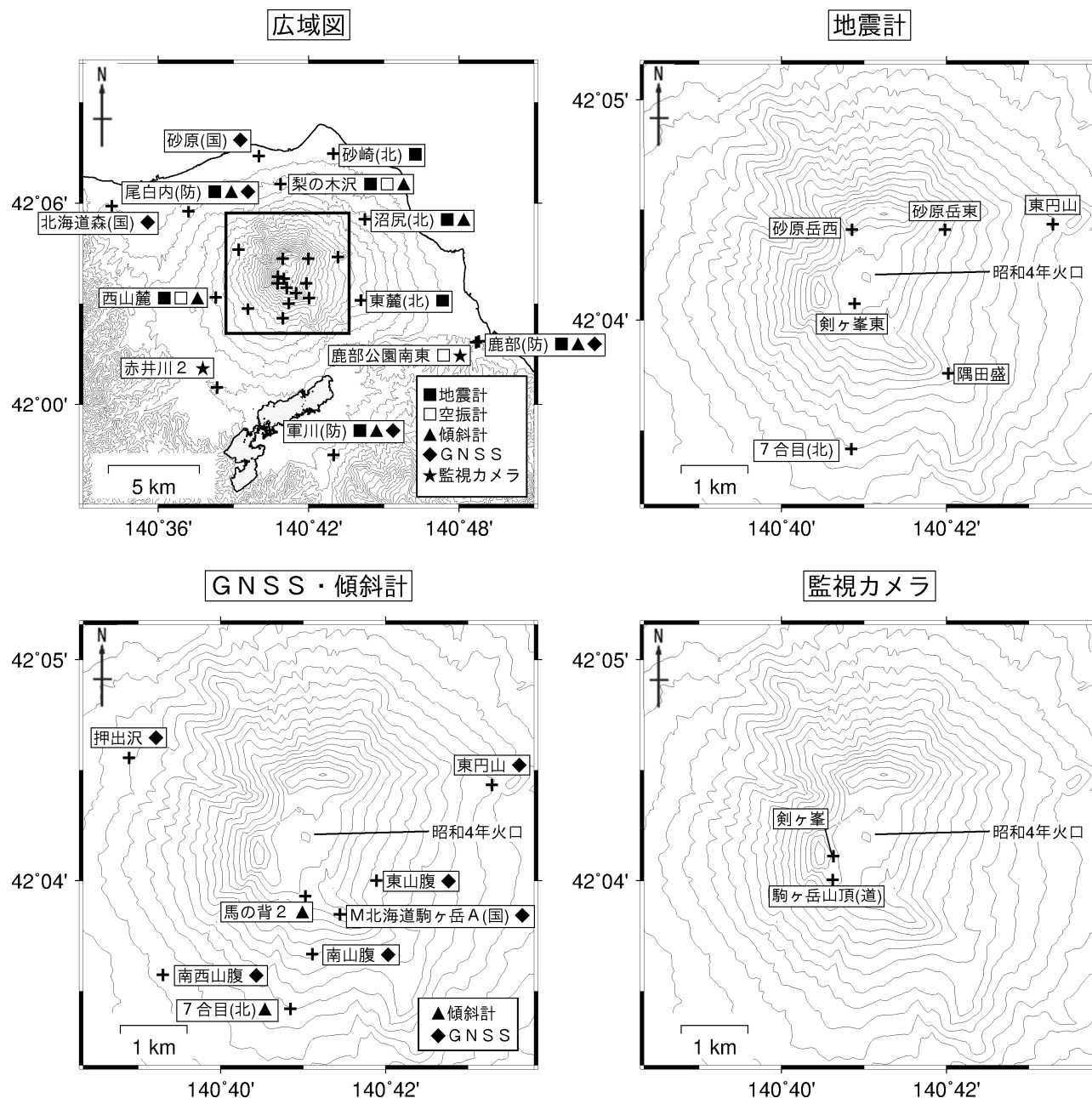


図8 北海道駒ヶ岳 観測点配置図

各機器の配置図は、広域図内の太枠線で囲まれた領域を拡大したものです。

+印は観測点の位置を示します。

気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています。

(国) : 国土地理院

(北) : 北海道大学

(防) : 国立研究開発法人防災科学技術研究所

(道) : 北海道